

そのメロディに魅せられて♪

『ラフマニノフ：ピアノ協奏曲第2番』

辻井 伸行ピアノ 佐渡 裕指揮 ベルリン・ドイツ交響楽団 C1ラ07472 篠崎ほか所蔵

ピアノを習っている私が、最近毎日のように聴いている曲です。現在は偉大な音楽家として知られるラフマニノフですが、曲を酷評されて精神的ダメージを受けた時期がありました。治療を受けて自信を取り戻し、復活して書き上げた

のがこの作品です。ロシアの雄大さが感じられる曲の流れに身をゆだねていると、時を忘れていくようです。多くの方が演奏していますが、激しさの中にも柔らかさの感じられる辻井伸行氏のピアノが、私は大好きです。

江戸川まいにんぐ 発掘 第71回 街道と江戸時代のにぎわい

江戸川区内のイベントやスポットについてスタッフが調査して身近な情報をお届けする地域密着型のコーナーです。

江戸川西岸の地帯の村々が活気をみせはじめるのは、慶長八年（1603年）に家康が幕府をひらき、江戸が発展してからのことです。人や物の往来が盛んな江戸時代、現在の江戸川区にあたる地域を通る街道は、諸大名の参勤交代路や行徳塩の輸送路に利用されていました。また、江戸時代の中期以降は庶民の成田山参詣の陸路として賑わったようです。町人や農民たちが経済的に余裕をもってきたので、信仰と遊山を兼ねた遠出の旅をするようになりました。成田山の参詣は、険しい山もなく女性や子どもでも容易に行ける場所ということで人気があったのです。

当時の街道の名残を今でも見つけられます。例えば千葉街道は、江戸時代には元佐倉道とよばれ主要な道路のひとつでした。

幕府は、江戸防衛のために河川

の架橋を制限し、さらに渡河地点の限定もしていたので、「渡し」は当時の交通の要衝でした。渡しからも街道の様子をうかがえます。下篠崎村には「河原の渡し」があり、ここに至る道のいくつかは、どれも同じく「河原道」とよばれたようです。街道の名前は主に目的地の名前が付けられたためです。幕府公許の渡し場には女人の通行が不可能なところもありましたが、この河原の渡しは女人も通行したと伝えられています。河原道を通して渡しを目指した女性たちは、遠出に浮かれたりしたのでしょうか。

街道はその後も通行人を変えながら、あるいは名前や形そのものを変えながら人々を賑わせ続け、今は私たちの足もとにあります。この道から、皆さまはどんな場所を目指したいですか。



参考資料

「古文書にみる江戸時代の村とくらし 2」江戸川区教育委員会社会教育課文化財係編
江戸川区教育委員会 K1-38-2 篠崎ほか所蔵
「江戸川区史 第1巻」江戸川区区史編纂室編 江戸川区 K1-21-1 篠崎ほか所蔵
「むかしの江戸川区」江戸川区郷土資料室編 江戸川区郷土資料室 K1-21 篠崎ほか所蔵
「行徳郷土史事典」鈴木 和明著 文芸社 K4-21 篠崎ほか所蔵

編集・発行：江戸川区篠崎図書館
住所：〒133-0061 江戸川区篠崎町7-20-19 篠崎文化プラザ内
TEL:03-3670-9102
[しのぎ文化プラザHP] 内篠崎図書館ページ
<http://www.shinozaki-bunkaplaza.com/library/>

▼ツイッター
やっています！



スポーツの秋。筋トレをしかっいい体を目指します。(風雲ふわふ丸) / 家の前の古い切り株に突如出現した、オレンジ色のキノコ。秋です。(モン) / 秋といえばブドウ。他の甘味を我慢してお小遣いをつぎ込みます(ぱるめりん) / ひつじ雲、うろこ雲、いわし雲、微妙にちがいがいます。(たてじま) / 濃厚なスイーツが美味しい季節です。(すずの木)

2021年10月1日発行（季刊）

図書館報★篠崎 ぶらっつ

071号

P2～P3 特集

「〇〇といえば私はコレ！」

P1 スタッフのセレクション
「翼をひろげて」

P4 そのメロディに魅せられて
「ラフマニノフ：ピアノ協奏曲第2番」

P4 江戸川まいにんぐ
「街道と江戸時代のにぎわい」

10月27日(水)から11月9日(火)は、「読書週間」です。
篠崎図書館では今年も読書の秋にぴったりの企画を実施します。



特別展示

SDGsを読む ～共生社会の実現をめざして～

10月26日(火)～11月21日(日)

江戸川区立図書館では9月28日(火)～11月21日(日)まで「江戸川区立図書館まるごとSDGs」と題し、様々な展示やイベントを開催します。篠崎図書館では読書週間特別展示として、SDGsに関連する様々な分野で活躍される方々にお薦め本を選んでいただきました。共生社会の実現に向けて考えるきっかけにしていいただければ幸いです

スタッフのセレクション！

篠崎図書館スタッフが選んだ
おすすめ本を紹介します。

翼をひろげて マルリース・バルデリ著 山崎 恒裕訳 求龍堂 943ハ 篠崎ほか所蔵

私はときどき、本を後ろから開いてみる。そうすると、前から順番に読むよりワクワクする。

この本の後ろには、まず著者と挿絵画家と訳者の紹介があって、それを一枚めくるとドイツのハンブルクという街の路線図がある。

その次のページには、簡単な世界地図が載っている。地図には、主人公のカルトシュケ氏が旅をした場所が、12ヶ所しるされている。

この小さな本の中で、どうやってそんなたくさんの場所に行ったのだろう、と興味が湧いてくる。

本の表紙には、アロハシャツを着たカルトシュケさんがうすい桃色の羽を広げて飛んでいる。その顔は穏やかで満足そう。

淡い色彩の優しいイラスト。本の中の文章も一つ一つが優しい。時間のある時にゆっくりと、一語一語を味わうように読んでみたくなる。主人公の心の繊細さ、柔らかさが伝わってくる。

でも、この本のメインテーマはそこではない。人

一倍思いやりがあって心の優しい人が、もし自分以外のものに情熱を傾けすぎてしまったらどうなるか、ということだ。

カルトシュケさんの人柄に癒されながら感情移入して読んでみると、だんだん様子が変わってきて、そのうち自分も一緒になって途方にくれ、泣き出しそうになる場面がやってくる。

それは、もしかしたら今まで一生懸命に生きてきた中で、誰もが身に覚えのある感情かもしれない。

本当の幸せとは何だろう。それをハッと思い出させてくれるような小さな物語である。



〇〇といえば 私はコレ!

読書週間がやって来ました。今年も特別企画として篠崎図書館の全スタッフが本をご紹介します。今回のテーマは「〇〇といえば私はコレ!」。すべてスタッフの主観で選んでいます。みなさまは共感できますか。



ジブリといえば 風の谷のナウシカ



ナウシカの飛行具、作ってみた

八谷 和彦ほか著
幻冬舎
538ハ
篠崎ほか所蔵

ジブリを大々的に有名にした作品と言えば「風の谷のナウシカ」だと思っている。小さい頃は空を自在に飛ぶナウシカが羨ましかったものだ。残念ながら現実世界に王蟲やキツネリスといった魅力的な生き物は存在しないが、実は現代技術でメーヴェは作れるのである。

斬新といえば 石岡瑛子



TIMELESS
石岡瑛子とその時代

河尻 亨一著
朝日新聞出版
757カ
篠崎ほか所蔵

石岡瑛子という名前は知らなくても、資生堂やPARCOの広告を見れば、あ、あの広告を作った人かとわかると思う。石岡瑛子の作品は何十年経っても新しくインパクトがある。時代時代のデザイン界をリードしてきた女性のカッコよさを今の若い人に是非知って欲しい。

映画といえば ハリウッド



ハリウッド・バビロン (1・2)

ケネス・アンガー著
明石 三世訳
パルコエンタテインメント事業部
778ア1-2
篠崎ほか所蔵

巨万の富と欲望渦巻くアメリカ映画業界。勢力を失った現在は先日その因習が露呈し、#MeToo運動に発展する大騒動となったのが記憶に新しい。最盛期を誇った1900年代半ばのハリウッド、そのダークサイドは絢爛豪華な表の顔に反しグロテスクである。

言葉の持つ力といえば おまじない



おまじない

西 加奈子著
筑摩書房
Fニ
篠崎ほか所蔵

誰かの何気ない一言に、縛られることもあれば救われることもあります。本書は生きづらさを感じている女子たちが、おじさんたちの言葉によって「変わる」瞬間を描いた短編集。見方が変わると世界も変わる。新しい解釈を与えてくれるおじさんたちの言葉にぐっときます。

奇跡といえば 秘密の花園



秘密の花園

フランシス・ホジソン・バーネット著
畔柳 和代訳
新潮文庫
J933ハ
篠崎ほか所蔵

幼い頃に読んだ本を読み返すのは、とても楽しい。この本は3人の子どもに訪れた素晴らしい奇跡を描いている。折しも本年はオリンピックイヤー。4年に一度の奇跡があちこちで起きていた。秘密という心躍る要素も加わり、奇跡をより強く感じる一冊。

名山といえば 低山

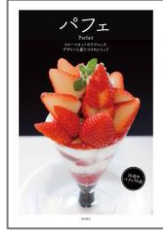


日本百低山

小林 泰彦著
文藝春秋
B291コ
篠崎ほか所蔵

名山といえば、アルプスのような標高の高い山を連想しがちですが、実は里山といわれる低山にも素晴らしい山はたくさんあります。低山歩きの名人である著者が厳選した百の低山を、楽しいイラスト付きで紹介。久しぶりに山に行ってみたいと思わせてくれた本です。

デザートといえば パフェ



パフェ

柴田書店編
柴田書店
596.6ハ
篠崎ほか所蔵

フランス語の「完璧な」という言葉を由来に持つパフェ。最近では名だたるパティシエたちによってよりおいしく、美しく進化しています。この本には有名店のパフェとそのレシピが数多く載っています。自分で作るのは難しくても見るだけで心躍る一冊です。

ピアノ曲といえば ショパン



ショパン紀行

堀内 みさ著
東京書籍
762ホ
篠崎ほか所蔵

ピアノ曲といえば、誰でも一曲は知っているショパン。39年の短い生涯で、様々な地を訪れている。その足跡をたどり、そこを守る人々の話を聞く。どのような背景で何を想い書かれた曲かを知れば、一層深く味わうことができる。ショパンの心の旅とともに歩みたくする本。

熱血&ポジティブ思考といえば 松岡修造



「弱さ」を「強さ」
に変えるポジティ
ブラーニング

松岡 修造著
文藝春秋
780マ
篠崎ほか所蔵

日本を代表するアスリート7人へのインタビューを通して、ポジティブになれるヒントを示してくれる一冊。ベストな状態であるためにはどれほどの苦しい状況を制してきたのか、自分を律してきたのか。その裏側を知ると感動で涙が溢れてきて、頑張る勇気が湧いてくる。

茶の湯といえば 千利休



利休にたずねよ

山本 兼一著
PHP研究所
Fヤ
篠崎ほか所蔵

現代にも伝わる茶の湯を大成させた千利休が、抹茶を飲む為に長次郎という職人に作らせたのが黒楽茶碗。緑色が映えて、本当に美しい。利休が追求したこれらの世界観は「わびさび」と呼ばれる。戦国の世で己の美学を貫いた茶人の物語をご堪能あれ。

英国といえば 紅茶



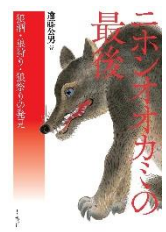
一杯のおいしい
紅茶

(『一杯のおいしい紅茶』所収)

ジョージ・オーウェル著
小野寺 健編訳
中央公論新社
B934オ
篠崎ほか所蔵

『1984年』の作者が語る「完全な紅茶のいれかた」。おそらく英国では激論となるであろうこのテーマについて「すくなくとも十一の項目は譲れない」として、明快かつ詳細に説明。ミルクが先か紅茶が先かという難問にもばっちり答えてくれます。砂糖は抜きという意見には私も賛成です。

日本の絶滅動物といえば ニホンオオカミ



ニホンオオカミの
最後

遠藤 公男著
山と溪谷社
382エ
篠崎ほか所蔵

本当にいたのか?と思えるほどその痕跡が感じられない。そこに疑問を感じ初めて関連書籍を読んでみたがなかなかの当たりだった。具体的な数が提示され生息していたことは実感できたが、残念ながら駆除された数である。資料的な内容が多いので好みは分かれるが、幻のオオカミたちと出会える。と思う……。

おでんといえば こんにゃく



こんにゃくの中の
日本史

武内 孝夫著
講談社
619タ
篠崎ほか所蔵

おでんといえば、こんにゃく(個人の見解です)。あの捉えどころのないプリプリは添え物に非ず。歴史は古く平安時代中期の辞書にも載っていると。こんにゃくがこんにゃく然とし、如何にして現代へと継承されてきたのか。歴史の陰にこんにゃくあり。

津軽三味線といえば 高橋竹山



自伝津軽三味線
ひとり旅

高橋 竹山著
新書館
768タ
篠崎ほか所蔵

津軽三味線を全国に普及させた名人・高橋竹山。幼少期に麻疹をこじらせ視力を失う。食べてゆくために芸を習い、門づけしながら各地を歩いた。竹山自身が語った放浪の生涯を思いながら聴けば、その魂が込められた津軽三味線の音色がより一層胸に響く。

笹といえば 可児才蔵



可児才蔵

志木沢 郁著
学研
BFシ
篠崎所蔵

可児才蔵は笹の枝を旗差物とし、討ち取った首に笹の葉を噛ませたことから「笹の才蔵」といわれた戦国武将です。主君に恵まれず主家を転々としませんが、戦働きで名を上げます。関ヶ原の戦いでは十七の兜首を取り徳川家康に絶賛された才蔵の一代記。戦国最強といわれた漢の生き様に惚れました。

なかなか手が出ないものといえば 厚くて二段組みの本



網内人

陳 浩基著
玉田 誠訳
文藝春秋
923チ
篠崎ほか所蔵

アイの唯一の家族である妹が、ネット上の誹謗中傷が原因で亡くなった。妹を死に追いやった人物を探すため、ネットに詳しい探偵アニエに調査を依頼する。2015年当時の香港社会が描かれたミステリ。読み始めたら本の厚さなど気にならない。秋の夜長にいかがですか?

空想科学小説といえば ジュール・ヴェルヌ



八十日間世界一周
(上・下)

ヴェルヌ著
高野 優訳
光文社
B953ヘ1-2
篠崎ほか所蔵

登場人物がとにかく魅力的! 読んでいるだけで一緒に世界旅行をしている気分になれる。この本が書かれた1870年代、気軽に旅行などできなかった時代の人々は、どんなにワクワクドキドキしたろう? 読み終わった時にほっこり幸せな気分になれる一冊です。